

Museum ってなんだろう？

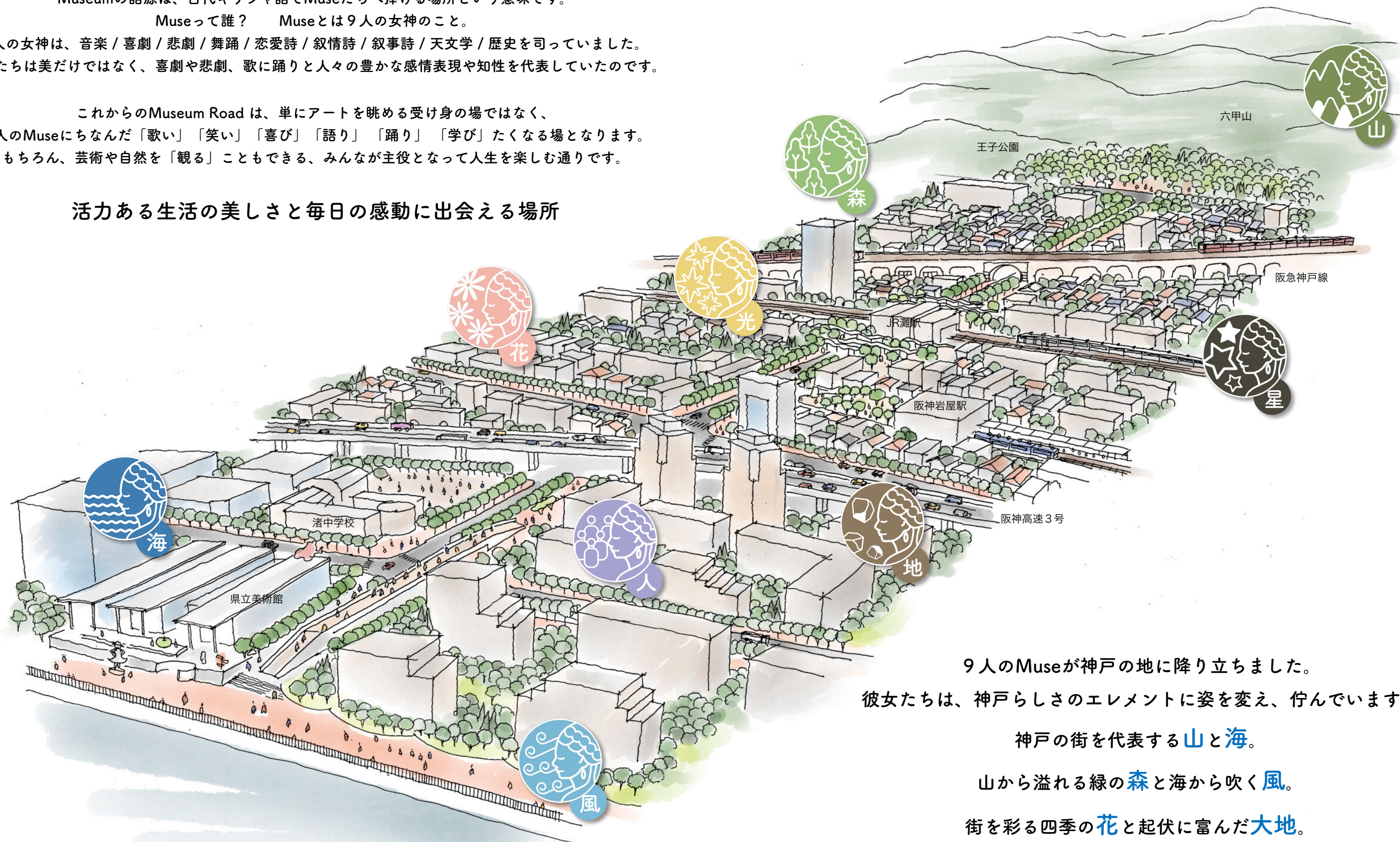
Museumの語源は、古代ギリシャ語でMuseたちへ捧げる場所という意味です。

Museって誰？ Museとは9人の女神のこと。

9人の女神は、音楽 / 喜劇 / 悲劇 / 舞踊 / 恋愛詩 / 叙情詩 / 叙事詩 / 天文学 / 歴史を司っていました。
彼女たちは美だけではなく、喜劇や悲劇、歌に踊りと人々の豊かな感情表現や知性を代表していたのです。

これからのMuseum Roadは、単にアートを眺める受け身の場ではなく、
9人のMuseにちなんだ「歌い」「笑い」「喜び」「語り」「踊り」「学び」たくなる場となります。
もちろん、芸術や自然を「観る」こともできる、みんなが主役となって人生を楽しむ通りです。

活力ある生活の美しさと毎日の感動に出会える場所



9人のMuseが神戸の地に降り立ちました。
彼女たちは、神戸らしさのエレメントに姿を変え、佇んでいます。

神戸の街を代表する山と海。

山から溢れる緑の森と海から吹く風。

街を彩る四季の花と起伏に富んだ大地。

昼の柔らかな光と夜に見上げた空の星。

最後は神戸の人たち。

私たちが9人目のmuseとなってMuseum Roadを楽しもう！

Meet the Muse

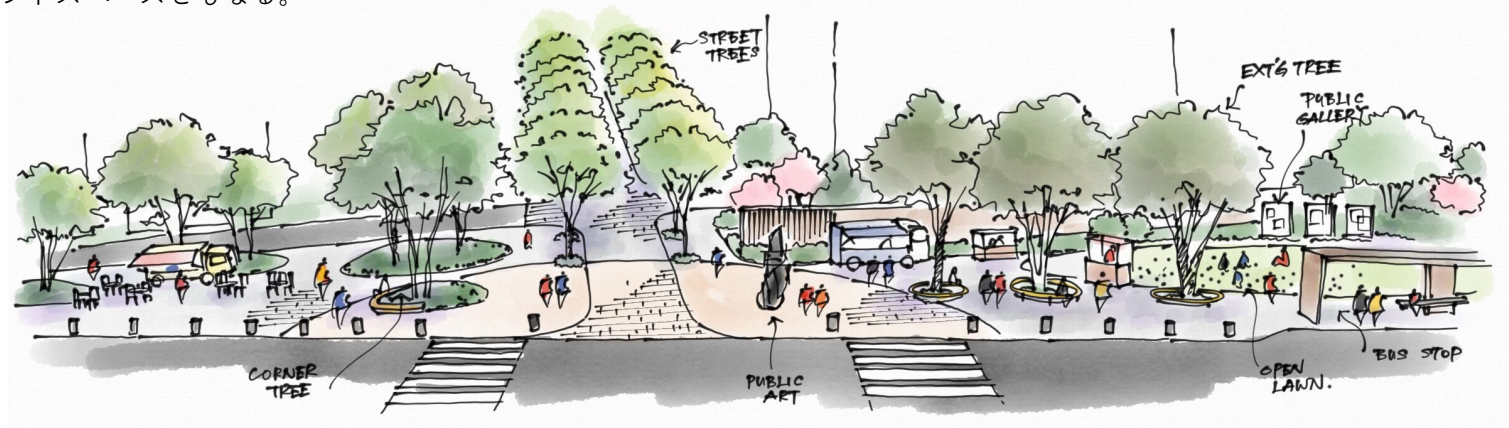
ミューゼアウ (ミューズにデアウ場所)

王子公園

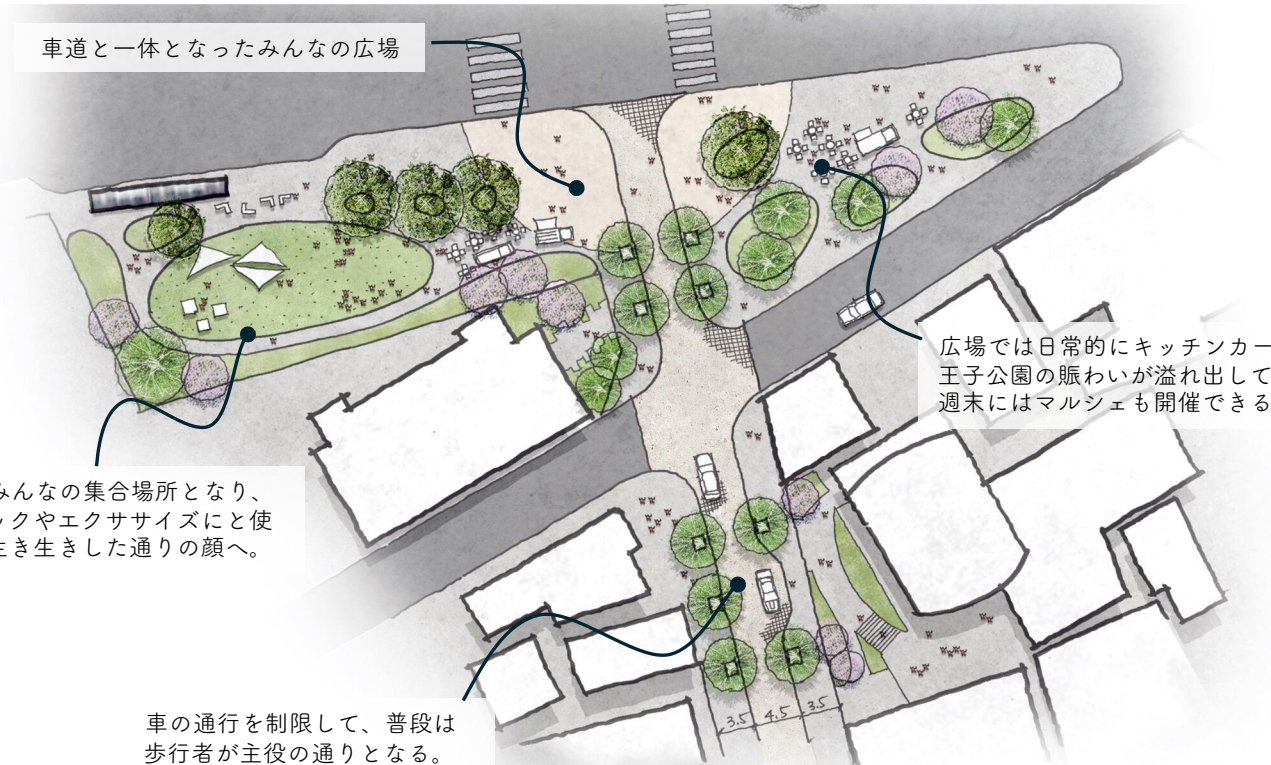
「山」と「星」と「人」のMuse



六甲山と王子公園から繋がる緑のプラザ。山の緑が溢れ出し、通りへと続いていく。みんなの交流、賑わい、憩いの場であり、周辺のお店が積極的に使える屋外のイベントスペースともなる。



車道と一体となったみんなの広場



広場では日常的にキッチンカーが来て、王子公園の賑わいが溢れ出してくる。週末にはマルシェも開催できる。

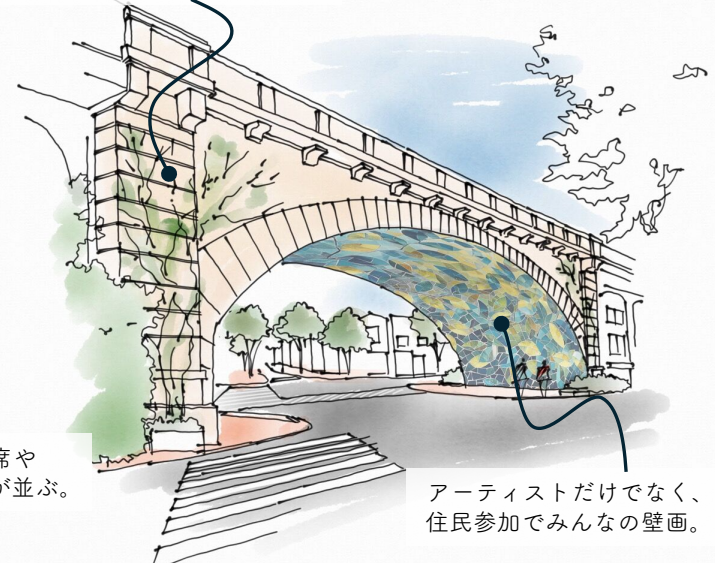
芝生はみんなの集合場所となり、ピクニックやエクササイズに利用される生き生きとした通りの顔へ。

車の通行を制限して、普段は歩行者が主役の通りとなる。



コミュニティー道路をさらに進めて歩行者が主役の通りへ。歩道幅を広げ、みんなの生活が街に溢れ出す。

四季の変化を楽しめる緑の葛。



阪急電車の拱橋は緑とアートに覆われて、ミュージアムロードの象徴的なノードに。

みんなの生活が息づく始まりの広場。

山からの緑が溢れる賑わいのストリート。

歴史と自然、アートが出会うゲート。

既存の街路樹が美しい緑のトンネル。

人がアートと自然美に出会う「灘の森」。

街路樹を繋げ、山から海へ続く美しい緑。

中間点の広場。生命に満ちた都市の劇場。

歩行者のための生き生きとした街路。

歩行者ブリッジを活かした表現の場。

そして、海へとつながる

MUSEUM ROAD MASTER PLAN



阪急電車拱橋

JR灘駅

緑道

阪神宮園駅

国道2号

海

風

人

渚中学校

県立美術館

「森」と「空」と「人」のMuse

JR灘駅の広場は「灘の森」がテーマとなり、多くのアートが展示される。生い茂る木々の木漏れ日を感じながら、アートに触れる場所となる。

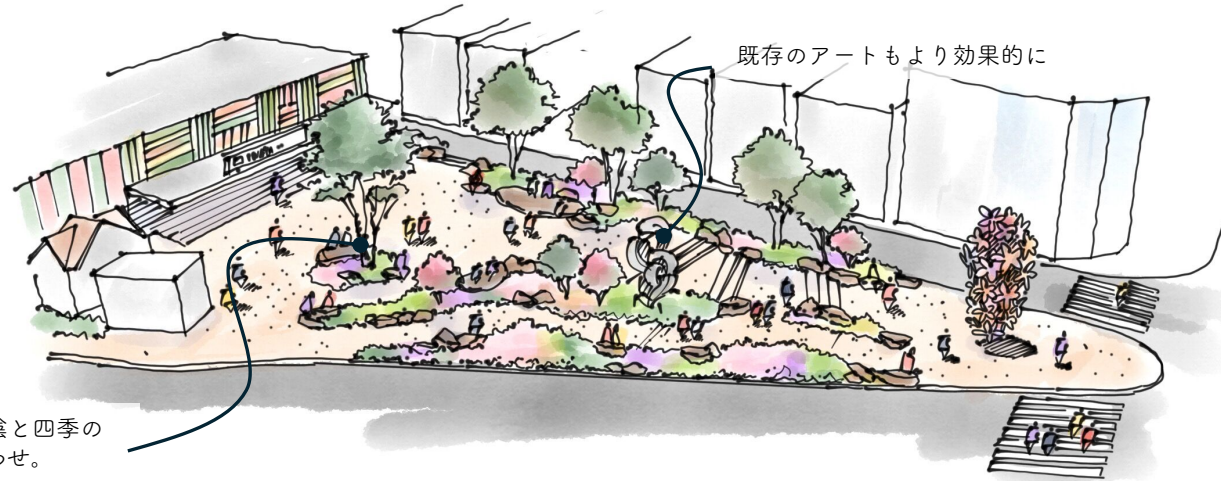
ここでは「森」と「光」と「人」のMuseに出会える。



神戸市HPより

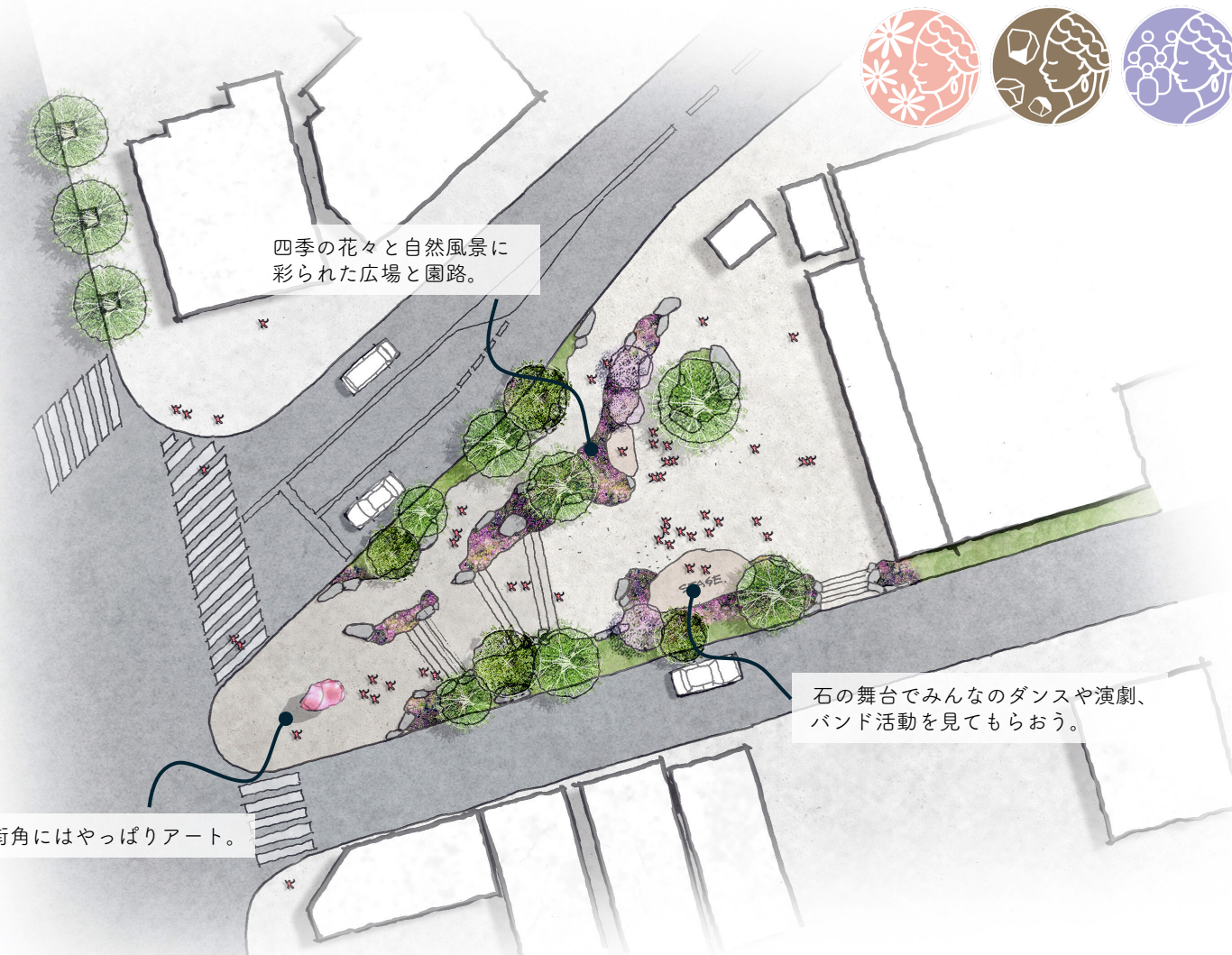
「花」と「大地」と「人」のMuse

阪神岩屋駅前には、Museum Roadのほぼ中間となる広場が広がる。ここは「花」と「大地」と「人」のMuseに出会える。みんなの生活劇場となって日々の表現の場所となる。季節を感じる花と石に囲まれた自然の中の舞台でもある。



既存のアートもより効果的に

シンボルツリーの木陰と四季の花に囲まれて待ち合わせ。



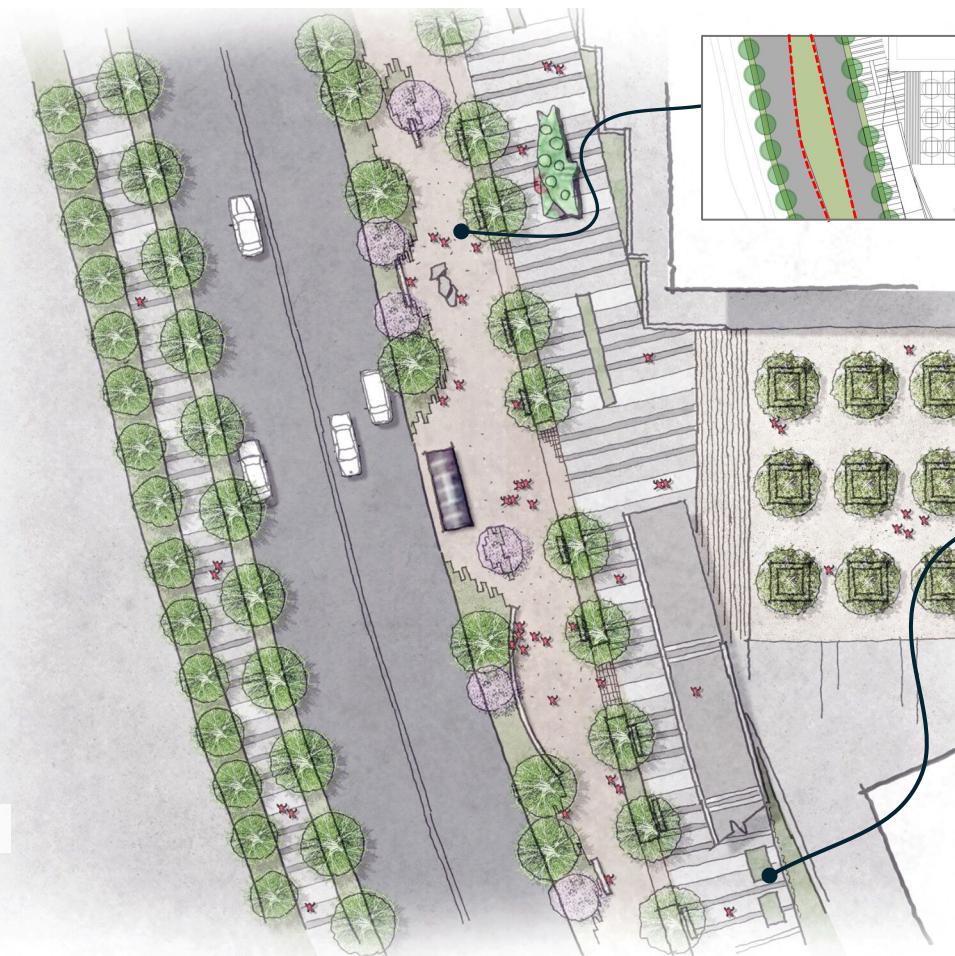
四季の花々と自然風景に彩られた広場と園路。

石の舞台でみんなのダンスや演劇、バンド活動を見てもらおう。

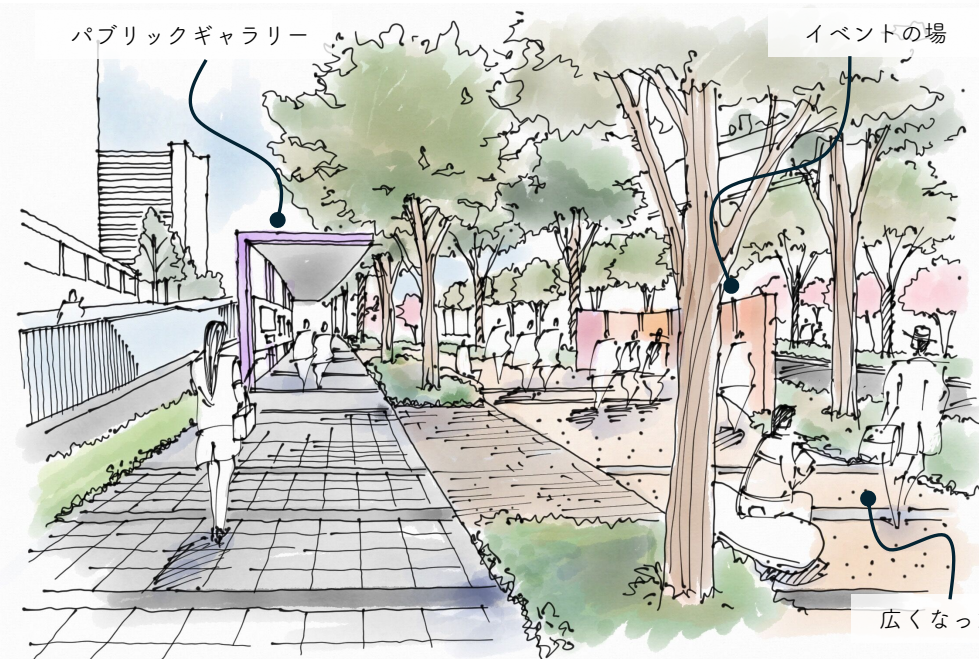
街角にはやっぱりアート。

「海」と「風」と「人」のMuse

国道2号を海側へ進むと空間のスケールが大きくなり、少し親密さに欠ける。歩いて楽しめるヒューマンスケールでウォークアブルな、「海」と「風」を感じる街路へと生まれ変わる。HAT神戸や渚中学校の「人」が通りへ繰り出し、日々の生活やイベントが外に溢れ出す。「海」と「風」と「人」のMuseに出会える場所。



活用されていない中央分離帯を歩道側に付け替え、安心して歩ける歩行空間を生み出す。



パブリックギャラリー

イベントの場

広がった歩道空間

ブリッジの歩行体験だけでなく、地上を安心して楽しく歩けるようにする。自由に展示できるパブリックギャラリーや日常的なイベントの場が賑わいをうむ。



歩道橋の下や壁面などの都市のデッドスペースを活かして、みんなが参加できる活動の場を作る。高架下では、音楽イベントやハンドクラフトのマーケットなど。橋の袂の壁面は、市民のギャラリーとなり、いつでも自由に展示や発表できる。